

「東川町新まちづくり計画 2024」パブリックコメント（意見募集）の結果について

番号	該当箇所	寄せられたご意見等	ご意見に対する考え方
1	基本目標 2	<p>福祉(高齢者福祉)における後期高齢者に対する医療費の助成の廃止 自治体財政における大きな支出が医療です。特に日本は国民皆保険制度が充足しており、かつ高額療養費制度もあるため十分に現役世代からの配分が高齢者に拠出されています。東川町として独自に高齢者への医療に関する支出補助を行うべきではないと考えます。財政の悪化や他の事業縮小が懸念されます。</p>	<p>本計画の策定にあたっては、現状の問題点、今後5年、10年後を見据えた上で生じることが予測される事象を抽出し、町の将来の「最悪のシナリオ」を考えた上で、「最悪のシナリオ」を回避するために何をすべきか、具体的な施策のアイデア出しをグループワーク形式で行いました。本計画は、策定委員の白熱した議論を経て、委員の皆様の貴重な意見をまとめたものであり、本計画書に示された言葉一つ一つが、策定委員会の議論から出た生きた言葉となっており、これからの町づくりに必要となる項目を整理していますので、後期高齢者に対する医療費の助成についても、必要なものと考えます。また、本計画は、東川町がめざすべき将来へ向けた基本的な方向を明らかにし、体系別に施策の方向を定めるものであり、年度毎に実施する具体的な事業内容は、町が本計画を踏まえ、状況の変化に即した手法と手段を用いた対応を図ることになります。</p>
2	基本目標 4	<p>「優良田園住宅の建設の促進に関する基本方針」の明記の必要性についてまちづくり計画 2024 について、様々な箇所において「美しい」という単語の明記がされているが、自然による「美しさ」について根源的な点では記載があるものの、人工物に対する制限についての記載が不足しています。写真の町東川の言葉の背景には、「町中のどの側面を切り取っても美しい状態を作る」という意味も含まれていたと認識しています。</p> <p>現状の東川町新まちづくり計画 2024 のままでは、景観保護において、自然の</p>	<p>「美しい風景を守り育てる条例に基づく景観政策の推進」に包含するものと考えます。</p>

番号	該当箇所	寄せられたご意見等	ご意見に対する考え方
		<p>美しさを担保するという東川町が元来保有していた景観に関する尊重が見られるものの、今後増加することが予想される人工建造物に対する審美性の担保、自然との協調性の担保の観点が不足しています。</p> <p>東川町では平成11年12月に「優良田園住宅の建設の促進に関する基本方針」を制定しており、町中の建造物全戸における基本方針のさらなる推進と徹底の記載が必要です。もしくは、「東川町景観計画東川風住宅設計指針ガイドブック」のさらなる推進と徹底の記載を望みます。</p>	
3	基本目標1	<p>基本計画(目指すべき姿と基本的な目標)の教育と学び(生涯学習・スポーツ)に関してです。</p> <p>東川町は、雪の影響により11月から4月まで屋外での練習を中心とする野球やサッカー、テニス等のスポーツの練習に十分な練習場所や時間の確保ができていない現状があります。</p> <p>これは、東川町だけでなく近隣地域もですが、どこの体育館も抽選やその他大会、各練習等により冬季の空きがほとんどない状況です。また、通年で使用する屋内スポーツ(卓球/バドミントン/バレー/バスケット等)も使用し、今空いている時間に屋外スポーツが入りきらない状態です。また、平日午前中も各団体(シニアクラブ等)や学校の授業として使用する為空きがありません。</p> <p>そこで、東川町に多種目対応の室内練習場(フットサルコート又はテニスコート2面分の広さ)・既存の屋外施設に屋根の設置を希望します。</p> <p>新たに室内練習場ができる事によって通年を通して、天候に影響を受けず屋内外のスポーツが充実したスポーツ活動を実施できます。</p> <p>また、東川町には多くの宿泊施設が存在し、冬季はスキーやクロカン等の合宿誘致をしており、夏季や春季は雨天時の屋内練習場が少なく合宿開催が難しいです。室内練習場ができる事により、夏季の東川町の快適な環境を生かし、北海道内外からの合宿や研修の受け入れに繋がると思います。</p> <p>ご検討のほどよろしくお願い致します。</p>	<p>「町民のニーズに応じた学習・スポーツ活動の実施」、「スポーツや運動による健康増進」、「スポーツ、レクリエーション施設の利活用の推進」、「合宿の受け入れ推進等による文化、スポーツとの連携」に包含するものと考えます。また、本計画は、東川町がめざすべき将来へ向けた基本的な方向を明らかにし、体系別に施策の方向を定めるものです。年度毎に実施する具体的な事業内容は、町が本計画を踏まえ、状況の変化に即した手法と手段を用いた対応を図ることになります。</p>
4	基本目標1	現状、東川町では屋内の運動施設が少ないのと、大きな施設のないと感じてい	「町民のニーズに応じた学習・スポーツ活動の実

番号	該当箇所	寄せられたご意見等	ご意見に対する考え方
		<p>る。</p> <p>特に冬場はスポーツ活動がしたくても町内では幅広いスポーツに対応した施設がなく、できないのが現状かと思う。</p> <p>屋内の多目的運動場（できれば人工芝）があると、冬場で活動するのが難しい野球、サッカー、テニス、パークゴルフなどができるようになり、少年団の強化、他種多様なスポーツの促進、高齢者の健康促進に繋がるかと思うのでぜひ検討していただきたい。</p> <p>参考・比布町多目的室内運動場いちごアリーナなど</p>	<p>施」、「スポーツや運動による健康増進」、「スポーツ、レクリエーション施設の利活用の推進」に包含するものと考えます。また、本計画は、東川町がめざすべき将来へ向けた基本的な方向を明らかにし、体系別に施策の方向を定めるものです。年度毎に実施する具体的な事業内容は、町が本計画を踏まえ、状況の変化に即した手法と手段を用いた対応を図ることになります。</p>
5	基本目標 4	<p>提案：地下水資源に関する学術的な調査研究の着手</p> <p>背景：上水道が無く全て地下水に依存するという恵まれた環境であるからこそ、その中長期的な将来性については、漠然とした不安を感じる町民も多いのではないかと。基本目標 4 には「地下水保全対策の推進」とあるが、単なる安全性や量の確保のレベルを超えて、大雪山系における地下水の現状や変化を、科学的に正しく、しかも網羅的に把握しておくことが必要であると考える。</p> <p>具体的な打ち手：大学等専門の研究機関との共同研究契約あるいは委託研究契約を締結し、研究の実務を推進してもらう。</p> <p>東川町としての責務：研究費の拠出、必要に応じた研究者の受け入れ</p> <p>研究実務の遂行：大学等研究機関</p> <p>効果：50年あるいは100年先といった中長期的な水資源に対する正しい理解が進むとともに、今後の気候変動や環境変化などにも、より科学的な対応策を検討することが出来るようになる。また研究の活発化が進めば、町内に常駐する研究者が出てくる可能性もあり。さらに、「地下水研究と言えば東川」のようなレベルになれば、この分野の学術集会やセミナーなどを町内に誘致したり、最前線の研究者による小・中学生、高校生、一般町民向けの講演会などの開催も可能となり、地下水資源に対する意識の高まりも期待できる。</p>	<p>「安心・安全な地下水の提供」、「地下水保全対策の推進」に包含するものと考えます。また、本計画は、東川町がめざすべき将来へ向けた基本的な方向を明らかにし、体系別に施策の方向を定めるものです。年度毎に実施する具体的な事業内容は、町が本計画を踏まえ、状況の変化に即した手法と手段を用いた対応を図ることになります。</p>
6	基本目標 5	<p>P43 II 基本計画の最後に『適疎なまちづくりの推進』が他のテーマ(項目)と同列で列記されています</p>	<p>東川町が取り組むべき課題について、「ゼロカーボン」の推進や、「デザインミュージアム」構想な</p>

番号	該当箇所	寄せられたご意見等	ご意見に対する考え方
		<p>この『東川町新まちづくり計画 2024』というのが適疎なまちづくり計画そのものだと認識しておりましたが、まちづくり計画 2024 の 1 項目の扱いということでしょうか？</p> <p>またゼロカーボン宣言に基づく目標達成に向けての方針は、まちづくり計画に落とし込んですすめて行くやり方もありますが、この計画 2024 では林業のところでゼロカーボンの文言がでてくるだけです 別にゼロカーボン施策の公表があるのでしょうか？</p>	<p>ど、幅広い分野の連携による施策実現に向け「適疎な町づくりの推進」という項目で整理しております。各個別の施策の実施に必要な計画については、必要に応じて町が計画の策定に取り組むこととなります。</p>
7	<p>基本理念 基本目標</p>	<p>『適疎なまちづくり』と『東川町新まちづくり計画 2024』の関係がよくわかりません。</p> <p>P27 基本計画 『まちづくりの基本目標』の 5 つの目標はほぼこれまでのプライムタウンづくり計画 21-Ⅲのそれを踏襲しています。</p> <p>この計画 2024 が適疎なまちづくりプランも兼ねているのであれば、P26 目指すべき姿の中で、これが目指すべき適疎な町であると強調するとわかりやすいと思います。このページでは視覚的に『適疎』が見えてきません(文字が多くて)。</p>	<p>基本理念で説明した内容を、基本目標のページにおいて体系的に説明をしており、基本目標のページにおいて具体的に表しています。今後、町において住民の皆さんに周知を図る概要版の作成の際に、検討いただくこととします。</p>
8	<p>序論 行財政</p>	<p>P18 I 序論 行財政では税収人にしか触れていませんが、町予算の多くを占める国他からの補助金、助成金等含め総額としての町の財政を紹介してはいかがでしょうか？ サステナブルに補助金を獲得していくことが町の財政の重要ポイントと思われます それに準じた II 基本計画 行財政への記述があるとつながりがよいと思われます</p>	<p>補助金等についてはその年度の事業により増減がある特定財源であるため、町づくりの根幹となり、影響を受けない一般財源である税収、町の財視力指数について掲載させていただいております。</p>
9	<p>基本目標</p>	<p>II 基本計画の項目について大方が先のプライムタウンづくり計画 21-Ⅲと重複しています</p> <p>一部『再掲』の標記がありますが意味不明です 先の計画から継続の項目はその旨明示してはいかがでしょうか？ また継続の理由も、計画に対し実現が不十分であったのか、更なる改善を目指すものなのか、説明があるとよいと思います</p>	<p>本計画において、様々な基本目標、分類にまたがる基本施策について、記載しております。例えば p 2 8 「教育と学び (幼児教育・保育、子育て支援)」の分類に「放課後の居場所づくりの推進」がありますが、p 2 9 「教育と学び (義務教育)」の分類にも同様の基本施策が必要と考えるため、【再掲】と記載しております。</p>

番号	該当箇所	寄せられたご意見等	ご意見に対する考え方
			<p>本計画の策定にあたっては、現状の問題点、今後5年、10年後を見据えた上で生じることが予測される事象を抽出し、町の将来の「最悪のシナリオ」を考えた上で、「最悪のシナリオ」を回避するために何をすべきか、具体的な施策のアイデア出しをグループワーク形式で行いました。本計画は、策定委員の白熱した議論を経て、委員の皆様の貴重な意見をまとめたものであり、本計画書に示された言葉一つ一つが、策定委員会の議論から出た生きた言葉となっており、これからの町づくりに必要となる項目を整理しています。そのため、「継続」と明示は不要と考えます。</p>
10	進捗管理	<p>P45 計画の進捗管理ではタウンミーティングの開催と記されています 物事の進捗管理では定量的な指標があるとわかりやすいと思います そのためにも II 基本計画の各項目につきまして定量的な表記がよいのではないのでしょうか？ 支援、推進、強化、確率、充実、実施、整備等々といった定性的な表現では期待値(目標)がはっきりせず、進捗や達成度を測る指標がありません。定量的な計画設定となっていれば進捗を客観的に測ることができ、次のまちづくり計画にも活かしていくことが容易と思われま</p>	<p>本計画は、東川町がめざすべき将来へ向けた基本的な方向を明らかにし、体系別に施策の方向を定めるものです。答申後、町において5か年の「実行計画」が策定され、毎年の行政執行方針などにより、目標達成に向けた取り組みを示すこととなります。 目標設定の方法として定量的な指標を用いる方法もあると存じますが、本計画が基本的な方向を示すものであることを踏まえ、計画に記載のとおり評価する場の設定が最適であると考えます。</p>
11	全般	<p>東川町新まちづくり計画 2024 とありますが、『計画』というには目標達成の施策まで期待します。 これは『計画』というより『構想』の段階ではないのでしょうか？ 上記のとおりすべての基本計画が定性的な表現となっています。『計画』とするからには少なくとも定量的な目標設定としたほうが多く理解を得られると思われま</p>	<p>基本計画として、「構想」と一体的な内容として策定をしています。答申後、町において5か年の「実行計画」が策定され、毎年の行政執行方針により、目標達成に向けた取り組みを示し、実施することとなります。</p>

番号	該当箇所	寄せられたご意見等	ご意見に対する考え方
		別途、施策方策の発表があるのであればここ(計画 2024)に詰め込まなくてもよいと思いますが、その旨説明があるとよいでしょう。	
1 2	基本目標 1	<p>・P31 基本計画 文化のところで『せんとぴゅあ』に関する記述があります。文化の幹となるせんとぴゅあですが、図書館としてはあまりにしょぼいと感じられます。たいそう立派な建物ですが陳列されている図書の数にあまりに乏しいと思います。</p> <p>大雪山文化の発信、写真の町と標榜しているのであれば、一般書はさておき山岳関係図書、写真集/写真関係書籍の充実を期待するものです 日本各地の登山拠点となる町には山岳図書館があり、その図書館で人を集めています すでに貴重な蔵書がたくさんありますが、更なる充実を図り、観光資源としての山岳図書/写真図書館としての広報を期待したいところです。(司書さんは蔵書の価値を高めることより収納場所がないため本を増やさないとしか頭にないようでした あの本の見にくい書架を工夫すれば現状の倍は蔵書を増やすことは簡単です)</p>	「地域特有の文化(大雪山文化、家具デザイン文化、写真文化等)の振興」、「『せんとぴゅあ』をはじめとした公共文化施設の利活用促進」に包含するものと考えます。また、本計画は、東川町がめざすべき将来へ向けた基本的な方向を明らかにし、体系別に施策の方向を定めるものです。年度毎に実施する具体的な事業内容は、町が本計画を踏まえ、状況の変化に即した手法と手段を用いた対応を図ることになります。
1 3	基本理念 基本目標	P21 I 序論 4 東川町の特徴的な地域課題で列記されている各課題についてそれぞれに対応する基本計画への紐付けが難しいと感じます。これらの課題に対処するためにまちづくりとして何を進めていくのか、Intuitive に基本計画の項目に繋がるとよいと思います	計画として体系的に整理し、基本理念、基本目標としてまとめています。本計画を住民周知する際に考慮させていただきます。
1 4	基本目標 2	<p>福祉を高年齢者支援から、子供への支援に回してほしい</p> <p>基本目標 2 にて後期高齢者への医療費助成等が記載されているが、日本の医療費増加の要因は高齢化が主であり、これらを若年層が負担している。高齢者はすでに医療費の自己負担率は若年より低いことを考えると、十分過ぎるのではないかと考える。これ以上、高齢者への医療費助成を行うのではなく、その費用を子供の教育支援や子育て世帯の支援に充てるべきである。少子化が進むことは、町自体の存続に関わる問題である。町が持続的に運営でき、かつ、町民が幸せに暮らすことを考えると、限りある予算をどう配分していくか考えていただきたい。</p>	子どもへの支援については、基本目標 1 の教育と学び、基本目標 2 の福祉に包含すると考えます。なお、本計画は、東川町がめざすべき将来へ向けた基本的な方向を明らかにし、体系別に施策の方向を定めるものです。年度毎に実施する具体的な事業内容は、町が本計画を踏まえ、状況の変化に即した手法と手段を用いた対応を図ることになります。
1 5	基本目標 4	景観について	「美しい風景を守り育てる条例に基づく景観政

番号	該当箇所	寄せられたご意見等	ご意見に対する考え方
		<p>東川町の景観は素晴らしいと考える。日本全国と比べても、これほど素晴らしい景観の町は、ほかに無いのではないかと思うほどである。まちづくり計画においても、景観は重要とされている。この素晴らしい景観を、今後も、より一層守っていくためには、景観条例の徹底が必要ではないかと考える。大雪山の稜線がいくら美しくても、人工的に作られた建造物が美しくなければ、町全体としての景観が美しいと言えるかは疑問である。現在の美しい東川町を守っていくためにも、景観条例の徹底をお願いしたい。</p>	<p>策の推進」に包含するものと考えます。</p>
16	基本目標1	<p>「新まちづくり計画 2024」を読ませていただいて、私にとってキラリと光った言葉は「帰ってくることでできるまちづくりを推進する必要がある」という文でした(P26)。</p> <p>高校や大学を卒業して、東川に帰って暮らすことができる、つまり、仕事がある、住みやすい、逢いたい人_がいる。一過性のまちでなく、そんなまちであって欲しいと願っています。</p> <p>東川高校に友人の子供さんが通っています。その友人は、東川はもったいないことをしていると、言います。「写真の町」と宣言しながら、高校にはそれがちっとも生かされてないと。友人の子供さんは写真に興味がありながらも、刺激を受けることなく1年が過ぎて、がっかりしているということでした。どんな高校生活を送れるか、何を学べるかは、お子さんが東川に帰ってきてくれるためにも大事なことだと思い、お伝えします。</p> <p>策定ありがとうございました。</p>	<p>「人づくりビジョンに基づく施策の推進」「北海道東川高等学校の特色ある学校づくりへの支援」に包含するものと考えます。</p>